

平成 25 年度 事業報告書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人理想教育財団

平成 25 年度実施事業の内容

【A】調査・研究事業 【 42,426,859 円 】

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究 【 4,624,688 円 】

1. 釜石市立釜石小学校校内研修会に、講師として榎木稔先生(京都市立静原小学校)を派遣した。「静原小の実践に学ぶ新聞・食育・環境教育」 出席者 16 名 (5 月 10 日)
2. 広島市立幟町小学校校内研修会「学級力向上プロジェクト」に、講師として田中博之教授(早稲田大学教職大学院)を派遣した。 出席者 6 名 (6 月 6 日)
3. 広島市教育センター「学級経営実践基礎研修」(教職 3 年目までの教員対象)に、講師として田中博之教授を派遣した。出席者 75 名 (6 月 6 日)
4. 広島市立五日市南中学校区小中合同授業研究会「学級力向上プロジェクト」に、講師として田中博之教授を派遣し、授業視察と講演会を行った。出席者 50 名 (6 月 14 日)
5. 京都市小学校教育研究会「青年教員・幹事研修会」に、講師として田中博之教授を派遣した。「学級力が育つワークショップ学習」出席者 140 名 (7 月 5 日)
6. 文教大学教育学部情報メディア活用授業での通信づくり実習に、講師として吉成勝好先生を派遣し、図書館通信の制作を指導した。作品は作品集に編集した。出席者 4 年生 70 名 (7 月 10 日)
7. 多賀城市教育委員会主催「平成 25 年度初任者・講師等対象研修会」に、講師として柵木弓先生(岡崎市立藤川小学校)を派遣した。「学級通信のつくりかたと活用について」 出席者 33 名 (8 月 9 日)
8. 京都市小学校校長会左京北支部夏季研修会に、講師として柵木弓先生を派遣した。「学級通信をとおして学級経営をおこなう」参加者 120 名 (8 月 19 日)
9. 京都市立西陵中学校区小中合同研修会に、講師として田中博之教授を派遣した。「習得学習から活用学習へ」出席者 60 名 (8 月 20 日)
10. 広島市立中広中学校区教科等研究会に、講師として田中博之教授を派遣した。「小中連携を見越した心をつなぐ学級力の向上」参加者 100 名 (8 月 23 日)
11. 京都市小学校教育研究会「青年教員・幹事研修会」に、講師として渡邊真龍先生(釜石市立釜石小学校)を派遣した。「子どもたちの命を守るために」出席者 200 名 (9 月 6 日)
12. 広島市教育センター「土曜開館特別セミナー」に、講師として柵木弓先生を派遣した。「私の学級づくり～学級通信に思いをのせて～」出席者 32 名 (9 月 21 日)
13. 東洋大学文学部教育学科 4 年教職実践演習にて学級通信づくり講座を開催。講師として吉成勝好先生を派遣した。「担任となって初めての学級通信の発行」出席者 48 名 (10 月 14 日)
14. 大阪総合保育大学 4 年教職実践演習にて通信づくり講習会を開催。講師として吉成勝

好先生を派遣した。出席者 108 名（11 月 13 日）

15. 新潟市教育委員会主催研修会「地域と学校パートナーシップ事業」を支援した。講師は宮地孝宜先生（東京家政大学専任講師）出席者 約 400 名（11 月 25 日）

16. 広島市己斐中学校区小中連携教育研究会に田中博之先生を派遣した。「～学び合い、支え合う学級力の向上～」（11 月 21 日）

17. 第 39 回宮城県小学校特別活動研究協議大会に講師として田中博之先生を派遣した。「学級力向上でいじめを防ぎ協力し合い認め合う仲間をつくる」出席者 70 名（12 月 4 日）

18. 文教大学教育学部情報メディア活用授業で通信づくり実習を前期に続き 2 回目を開催し、講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者 70 名（1 月 15 日）

19. 帝京大学の平成 25 年度入職前学習会にて学級通信づくりを開催、講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者 25 名（2 月 4 日）

A-2 教師による自作教材の調査・研究 【 366,635 円 】

2 色プリントの効果的利用に関する調査・研究のまとめとして制作した「2 色プリントの活用事例」を配布した。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 【 37,435,536 円 】

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

新学習指導要領に準じ各教科を通した「言語活動の充実」を果たしつつ、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として、はがき新聞づくりを推奨。今年度の実践申込校は 105 校となり、その実践研究の成果の一部は実践レポートとして「季刊理想」に掲載した。

<主な活動内容>

1. はがき新聞研究会

①朝日新聞社が運営するウェブサイト「朝日 Teachers' メール」に、はがき新聞づくりの教育効果や実践例を紹介した。毎月のコンテンツをはがき新聞研究会の先生方に寄稿してもらった。

②共通教材を使ったはがき新聞活用の調査研究をテーマとして、小学校 4 年の「ごんきつね」、中学校 1 年の「少年の日の思い出」という単元で、はがき新聞を使った授業実践例を収集した。両単元における、はがき新聞のより良い活用方法を探求する。

2. はがき新聞の教育効果について研究委託

①研究テーマ：コンパクトテキストによる文書表現力育成の研究—言語活動の充実に向けてのはがき新聞等の利用—

研究委託：森山卓郎教授（早稲田大学文学学術院）

【研究目的】はがき新聞をコンパクトテキスト産出の取組として位置づけ、学校教育の様々な局面において如何に応用できるかを考えるとともに、その効果を測定する。本研究は、はがき新聞研究会と連携して研究する。

実施期間：平成 25 年 6 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日（3 年継続とする）

研究成果は、報告書、書籍にまとめる。

○第一次調査の実施 テーマ「4 年生になってがんばったこと」

北区立滝野川小学校 1 クラス・横須賀市立田戸小学校 4 クラス・豊島区立池袋第二小学校 1 クラス・北区立第三岩淵小学校 2 クラス・町田市立南第一小学校 3 クラス・城陽市立深谷小学校 2 クラス・明石市立大久保小学校 6 クラス

○第二次調査の実施 テーマ「ことしのお正月から後でがんばったこと」

豊島区立池袋第二小学校 1 クラス・横須賀市立田戸小学校 4 クラス・北区立滝野川小学校 1 クラス・北区立第三岩淵小学校 2 クラス・町田市立南第一小学校 3 クラス・城陽市立深谷小学校 2 クラス・明石市立大久保小学校 6 クラス

②研究テーマ「こどもが学級新聞とはがき新聞を通して、学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明」

研究委託：田中博之教授(早稲田大学教職大学院)

【研究目的】小中学校における学級経営の新しい方法として、児童・生徒が自らの学級力向上に取り組むにあたり、はがき新聞・壁新聞を作成・発行する力を育てる授業のあり方を明らかにすることをねらいとする。

実施期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日（本委託研究は平成 23 年より 3 年目の継続）

研究成果は、報告書、書籍にまとめる。

第 1 回学級力向上プロジェクト研究会（早稲田大学 16 号館 311 室）今年度の学級力向上プロジェクトの実践報告と評価 出席者 23 名（12 月 22 日）

第 2 回学級力向上プロジェクト研究会（早稲田大学 14 号館 604 室）今年度下期の実践報告と評価 出席者 12 名（3 月 23 日）

3. 教育フォーラム「メルヴィ・バレ先生を囲んで」開催

フィンランド教育の第一人者メルヴィ・バレ先生を迎え、パネルディスカッションを行った。テーマ：「フィンランド教育に学ぶ豊かな言語活動のあり方」

パネラー：関口修司先生(北区立滝野川小学校校長)、宮前嘉則先生(桐生市立清流中学校)、堀口友紀先生(墨田区立小梅小学校)、羽賀絹恵先生(豊島区立池袋第二小学校)

司会進行：矢吹正徳日本教育新聞社編集局長

通訳・指導：田中博之教授(早稲田大学教職大学院)

一般参加として関東地区小中学校の先生約 20 名を招き、メルヴィ先生の基調講演「フィンランド教育の現状」の後、各パネラーによる授業実践報告についてメルヴィ先生からの指導とディスカッションを行った。本パネルディスカッションの内容は、日本教育新聞 8/19 号に特集として掲載された。また、当財団の季刊理想に掲載した。(8 月 4 日)

4. はがき新聞の促進活動

- ①高知市立愛宕中学校のはがき新聞づくり校内研修を支援、講師として吉成勝好先生を派遣した。参加者 40 名（4月3日）
- ②西東京市東伏見小学校のはがき新聞づくり授業を支援、講師として斉藤真弓先生を派遣した。制作課題「運動会の招待状をはがき新聞でつくろう」 3年生2クラス 80名（5月20日）
- ③東京家政大学人文学部教育福祉学科の初年次導入教育に、講師として羽賀絹恵先生を派遣し、はがき新聞づくりを指導した。テーマ「自己紹介新聞」 1年生 86名（7月31日）
- ④兵庫県の国語研究会「ことばと体験の会」第10回ワークショップセミナーにて、教師のためのはがき新聞活用講座を支援、講師として蛭谷みさ先生（豊中市立中豊島小学校）を派遣した。参加者 65名（8月19日）
- ⑤広島市教育センター「教職経験6年次教員研修」に、講師として宮前嘉則先生を派遣した。「言語活動の充実をめざして はがき新聞の特性と作成のポイント」 参加者 130名（8月19日）
- ⑥姫路市教育委員会「平成25年度パワーアップ研修講座」に、講師として宮前嘉則先生を派遣した。「言語活動の充実を目指したはがき新聞の活用」 参加者 30名（8月21日）
- ⑦東洋大学文学部教育学科4年生の教職実践演習講座ではがき新聞づくりを実施。講師として吉成勝義先生を派遣した。参加者 48名（10月7日）
- ⑧大阪市中学校教育研究発表会 新聞教育部会にてはがき新聞づくりのワークショップを開催支援した。出席者 63名（10月16日）
- ⑨第7回「ことばと学びをひらく会」にて、「はがき新聞—短文章で充実授業」としてワークショップを開催。講師として羽賀絹恵先生を派遣、講義指導を森山卓郎先生・達富洋二先生が担当した。出席者 25名（10月19日）
- ⑩早稲田大学教育学部4年生教職実践演習にてはがき新聞づくり講座を実施。講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者 23名（12月16日）
- ⑪西九州大学こども学部1年生を対象としたはがき新聞づくりを支援した。本授業は毎年継続して実施し、今年で4年目となる。出席者 72名（1月21日）
- ⑫京都古文化保存協会他主催「第51回小中学生記者の文化財取材コンクール」を後援し、理想教育財団賞を授与した。（1月20日）
- ⑬早稲田大学教職大学院「授業開発の実践研究講座」にてはがき新聞づくりを実施した。出席者 11名（2月1日）
- ⑭兵庫県ことばと体験の会主催第11回ワークショップセミナーにて、はがき新聞づくりを支援、講師として田内智恵先生を派遣した。出席者 30名（2月23日）

【B】情報提供事業 【 14,965,320 円 】

B-1 教育関連出版物の刊行 【 338,285 円 】

「通信づくりハンドブック」「通信づくりの知恵袋」を配布した。

B-2 研究情報誌の発行 【 12,955,227 円 】

機関誌「季刊理想」の発行。

B-3 ホームページの運用 【 1,671,808 円 】

財団事業の告知や活動報告、情報開示等を発信した。

(参考)平成26年3月度アクセス状況:月間訪問者数10,144人、内新規訪問者平均は71.59%、ページビュー数27,497件。

「通信づくりの知恵袋」「通信なんでも相談室」のアクセスが多い。

【C】助成・顕彰事業 【 57,452,282 円 】

C-1 後援・支援事業 【 4,186,387 円 】

1. 「書」教育の推進策として、書家指導による自由書制作出前授業を実施した。自由書制作という過去経験のない授業のため、事前に教師向指導会を開催した。

出前授業当日は、こども達が事前に選んだ漢字をカラーインクで自由闊達に竹紙に表現した。各学校では当日制作した作品の中から優秀作品が選ばれ、第21回「臨書と自由書作品展」へ応募された。

○出前授業の実施校

- ・群馬県藤岡市立日野小学校 テーマ「養蚕」 5・6年生14名 (6月25日)
- ・東京都豊島区立池袋第二小学校 テーマ「自由」 6年生45名 (7月2日)
- ・東京都武蔵村山市立第五中学校「五中フェスティバル」1～3年の希望者30名(6月29日)
- ・堺市立新浅香山小学校校内研修会にて、自由書制作授業の教師向講習会を実施した。出席者20名 (8月26日)

2. 第21回「臨書と自由書作品展」(主催:児童の書を考える会 代表 高橋里江)を共催した。

期間:平成25年9月2日～8日(7日間) 会場:東京芸術劇場5階 ギャラリー2

展示テーマ:「書ク・思ウ・考」 後援:東京都教育委員会 協力:中越パルプ工業株式会社
今年度よりタイトルを「コンクール」から「作品展」に変更、児童生徒の作品と一般・指導者の作品展示にもウエイトをおく展覧会とした。

7月28日、新宿区エコギャラリーで審査会を開催、コンクール対象の児童生徒の応募作品397点から大賞1点、東京都教育委員会賞5点、理想教育財団賞12点、他各賞を選定した。

9月2日から東京芸術劇場(東京豊島区)ギャラリー2にて作品の展覧会を開催。261作品を

展示した。尚、表彰を9月8日に会場にて実施。期間中の来場者は844名。

3. 横浜市立学校総合文化祭の協賛とポスター制作等を支援した。

4. 広島市教育委員会主催の「文化の祭典」を後援。伝統文化テキストとポスター制作を支援した。

C-2 新聞教育の普及・振興 【 6,237,117 円 】

1. 第56回全国新聞教育研究大会大阪大会(主催:全国新聞教育研究協議会他)を後援。

会場:興國高等学校・なんば道頓堀ホテル 出席者約200名(8月5日)

大会主題:「心を育て、心をつなぐ新聞教育～言語活動の充実～」

大会の記念講演 1「釜石の奇跡(自ら救った命)と新聞教育」の講師:渡邊真龍先生(釜石市立釜石小学校)及び、教師向けの講習会「はがき新聞づくり」の講師:田内智恵先生(大阪市立西天満小学校)を派遣した。

2. 熊本日日新聞第3回はがき新聞コンクール「楽しく作ろう夏休みはがき新聞コンクール」を後援した。出席者約200名(10月12日)

3. 第63回全国小中PTA新聞コンクールを後援した。最終審査会にて内閣総理大臣賞ほか各賞を決定し、理想教育財団賞は、学習新聞の部において、山形県鶴岡市立朝陽第三小学校2年1組「生活科新聞」と立川市立立川第七中学校3年「わがまち新聞」「受験に役立つ新聞」に授与した。(2月1日)

4. 第48回北九州市小中特別支援学校新聞コンクールを後援し理想教育財団賞を授与した。学習新聞の部 北九州市広徳小学校4年1組「社会科新聞」・北九州市足立中学校 文化図書委員会「足立Books」 PTA新聞の部 北九州市立企救丘小学校PTA「きくがおかPTA」出席者 約200名(2月22日)

5. 第40回東京都小中学校新聞コンクールを後援し作品集制作等を支援した。(表彰式2月22日)

C-3 日本人学校への支援・助成 【 1,583,535 円 】

海外日本人学校等への児童図書寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10校に対し日本の図書を寄贈した。公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により実施。

<寄贈先>

マニラ日本人学校(フィリピン)、マナウス日本人学校(ブラジル)、ブエノスアイレス日本人学校(アルゼンチン)、スラバヤ日本人学校(インドネシア)、南インドアナ日本人補習校(アメリカ)、イスタンブル補習授業校(トルコ)、リヨン・ジェルラン補習授業校(フランス)、バルセロナ補習授業校(スペイン)、サイパン日本人補習授業校(アメリカ)、ペラ日本人補習授業校(マレーシア)

C-4 コンクールの開催・顕彰 【 31,107,913 円 】

第9回「プリントコミュニケーションひろば」の開催、総応募数 小学校の部 352 作品 中高の部 334 作品 合計 686 作品であった。

一次審査会 4月13日(小学校の部)、4月27日(中学校・高校の部)を経て、5月17日に最終審査会を開催した。

最優秀賞・理想教育財団賞に岡崎市立三島小学校 浅井優子先生の学級通信「切磋琢磨」を選定。作品は、手書きの親しみやすさと新感覚の編集レイアウト、さらに文章に躍動感が感じられると高く評価された。

7月16日、審査員代表として富安敬二教授(立教大学)と酒井専務理事が三島小学校を訪問し授与式を挙行了した。

また、第10回「プリントコミュニケーションひろば」の作品募集を開始し、平成26年1月2日～3月31日まで応募を受付けた。

C-5 東日本大震災被災校への特別支援事業 【 14,337,330 円 】

平成23年3月11日の東日本大震災によって被災した宮城県・福島県の16教育委員会を窓口にして被災地の学校128校に対し希望図書・教材を寄贈した。調達納品は地元業者を選定し実施した。

寄贈先及び寄贈式の開催日

宮城県

1. 宮城県山元町教育委員会 8月28日開催(小学校4校中学校2校計6校)
2. 宮城県亘理町教育委員会 8月28日開催(小学校6校中学校4校計10校)
3. 宮城県岩沼市教育委員会 9月12日開催(小学校4校中学校4校計8校)
4. 宮城県東松島市教育委員会 9月13日開催(小学校9校中学校3校計12校)
5. 宮城県石巻市教育委員会 9月13日開催(小学校7校中学校8校計15校)
6. 宮城県名取市教育委員会 9月27日開催(小学校11校中学校5校計16校)

福島県

1. 福島県新地町教育委員会 8月28日開催(小学校3校中学校1校計4校)
2. 福島県飯舘村教育委員会 8月29日開催(小学校3校中学校1校計4校)
3. 福島県葛尾村教育委員会 8月29日開催(小学校1校中学校1校計2校)
4. 福島県富岡町教育委員会 9月26日開催(小学校2校中学校2校計4校)
5. 福島県浪江町教育委員会 9月26日開催(小学校1校中学校1校計2校)
6. 福島県大熊町教育委員会 10月25日開催(小学校2校中学校1校計3校)
7. 福島県楢葉町教育委員会 11月22日開催(小学校2校中学校1校計3校)
8. 福島県広野町教育委員会 11月22日開催(小学校1校中学校1校計2校)
9. 福島県相馬市教育委員会 12月13日開催(小学校10校中学校5校計15校)
10. 福島県南相馬市教育委員会 12月13日開催(小学校16校中学校6校計22校)

本特別事業を推進するにあたり、昨年度に申請をしていた日本郵便株式会社（旧郵便事業株）の年賀寄附金配分申請が採択され、本被災校への支援事業に 500 万円の助成（2 年連続）を受けた。

寄贈先の東松島市長・亙理町長・飯舘村長・岩沼市長より感謝状、学校から感謝の手紙を頂いた。

尚、本事業は平成 25 年度をもって終了する。

その他の事項

1. 会議の開催

①理事会・評議員会

第 10 回理事会 平成 25 年 5 月 22 日

第 11 回理事会 平成 25 年 6 月 17 日（決議の省略の方法による）

第 12 回理事会 平成 25 年 11 月 30 日

第 13 回理事会 平成 26 年 3 月 10 日

第 3 回定時評議員会 平成 25 年 6 月 22 日

②はがき新聞研究会

第 1 回研究会 平成 25 年 4 月 6 日

第 1 回関西西部会 平成 25 年 12 月 26 日

第 2 回関西西部会 平成 26 年 2 月 15 日

第 2 回研究会（関東部会）平成 26 年 3 月 28 日

③プリコミ企画会議 平成 25 年 11 月 5 日

以上